

海の三方よしの実現へ—新規事業座談会



世界が注目する「ブルーカーボン」。 岡部の新しい挑戦が始まる。

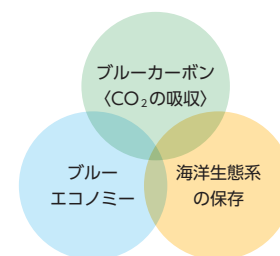
当社が長い時間をかけて育んできた海洋事業が今、新たな局面を迎えています。気候変動や世界的な環境破壊が危惧される中で、海洋事業部と事業開発室が連携して進める「ブルーカーボンプロジェクト」について、事業に携わるメンバーの5人が語りました。

ブルーカーボンとは

海草や海藻といった海中の生物に貯留される炭素がブルーカーボンです。2009年に公表された国連環境計画（UNEP）の報告書において定義され、CO₂を吸収・固定する新たな選択肢として世界的に注目されています。日本においても、関係省庁が連携して取り組みを強化しています。ブルーカーボンの主要な吸収源であるブルーカーボン生態系（藻場（海草・海藻）や干潟、マングローブ林など）は、水質の改善や生態系保全など、炭素の吸収以外にも様々な価値があります。ブルーカーボン生態系の保全が、地球温暖化の防止のみならず、生物多様性に富んだ豊かな海を醸成し、さらには私たちの豊かな生活につながります。

関係省庁の動き

環境省	◆ブルーカーボン生態系の排出・吸収量の算定・計上に向けた検討を進めている ◆2023年4月 国連へ報告したGHGインベントリにおいて、マングローブ林による吸収量を計上
国土交通省	◆2020年 日本初となるブルーカーボンに関する技術研究組合「JBE（ジャパンプルーエコノミー）」設立を認可
水産庁	◆2021年「磯焼け対策ガイドライン」策定



岡部グループは、
海のサステナブルサイクルを創出し、
「海の三方よし」
を実現します。

2つの部門について

前野：当社海洋事業部の魚礁事業は2008年から事業を開始しましたが、生物や海藻研究の歴史は古く、1989年に遡ります。現在の事業の柱は人工魚礁、藻場礁の設計・製造・販売です。魚礁、藻場礁はコンクリートや鉄、FRPで作った魚の住み家、発注・所有するのは主に各自治体となります。

阿部：事業開発室は、岡部の将来の柱となるような新規事業を生み出すことが最大のミッションです。設置されたのは2021年、まだまだ歴史の浅い部署です。様々な事業アイデアを発案し、事業化の可能性を探る部門になりますね。

海の三方よしの実現へ—新規事業座談会

ブルーカーボンプロジェクトとは？

前野：ブルーカーボンは、簡単に言うと海洋で吸収・固定されるCO₂のことです。岡部には海藻の苗を育てる技術があり、その技術には他社に比べて優位性も数多くあります。2012年に設立した隠岐の応用藻類学研究所では、「磯焼け」と呼ばれる海藻の減少を食い止めるため、藻場の造成や保全の技術を研究しています。ブルーカーボンが世界的に注目されはじめたのは、2009年にUNEP（国連環境計画）で命名されて以降になります。このブルーカーボンに対して私たちの事業のノウハウを活かし、貢献できないかというのがプロジェクトの発端となります。

林：私は応用藻類学研究所で30年以上、海藻を増養殖するための研究をしています。1999年に水産庁が水産業界に役立つ先駆的な事業として、藻場礁と人工培養した海藻種苗を移植する技術を組み合わせた「藻場造成工法」を実証報告し好評を得ました。磯焼けによる藻場の減少や消失が深刻化するなか、採用機会が増えており、最近ではCO₂吸収にも貢献する技術として注目されています。

事業化に向けた今の動き

前野：今は事業開発室とともに、ブルーカーボンの事業化を模索している段階ですが、当社としては、この事業化は既に視野に入っており、2024年にスタートさせた中期経営計画にも織り込まれています。環境貢献、SDGsへの貢献という文脈もありますが、しっかり事業として軌道に乗せていこうというのが当社の想いです。ブルー

カーボンをクレジットとして取引を行う「Jブルークレジット®」も検討課題の一つです。

須田：岡部でブルーカーボン事業を本格的に検討しはじめたのはここ数年ですが、私はその前の2017年から18年に情報収集や藻場造成と絡めた営業活動をはじめていました。水産庁だけでなく、環境省、経済産業省、国土交通省でも事業化される可能性があると考え、全国を回って情報を収集しました。

阿部：事業開発室では現在、ブルーカーボンの事業化に向けて、様々なビジネスモデルを考えている所です。単純に、海藻の養殖施設を作って販売していくといったプロダクト・アウト的な発想ではなく、養殖した海藻の二次利用方法など、様々な可能性を探っています。

諏訪園：まずはブルーカーボン事業のコンセプトを明確にしたうえで、この事業で収益をあげるためのビジネスモデルを検討しています。今、私が模索しているのは、養殖で育てた海藻を使ってビジネスをすることです。養殖をした海藻は刈り取る必要があり、その海藻をどう使うかということです。海藻を育てて炭素を吸収させるだけでなく、育てた海藻を回収し、いかに有効活用するのがポイントになってきます。現在の当社の事業領域で言えば、建材の素材として海藻を使うことも一つの道です。考えなければいけないことは沢山あります。

前野：海洋事業部では事業化に向けてこれまでの事業活動でつながりのある事業主やお客様とも積極的に対話を重ねています。応用藻類学研究所の板倉所長（水産庁入庁後、独立行政法人水産総合研究センター 瀬戸内海区水産研究所環境保全研究センター長などを歴任）や、外部有識者からの助言も頂いて

います。諏訪園さんの話にもありましたが、海藻の二次利用については事業開発室の力も借りており、事業化は少しずつ形になりはじめています。岡部は2024年6月、「ブルーカーボン事業化に向けた多段式の海藻養殖技術を開発」というニュースリリースを行いました。海藻養殖の効率化につながる多段式海藻養殖のアイデアは、海洋事業部と事業開発室の共同で進めました。紆余曲折はありましたが、実施に至り、2024年の春から収穫活動が始まっています。

プロジェクトの未来、岡部の未来

須田：私は応用藻類学研究所からスタートし、魚礁の営業などを経て、今は営業の一環としてブルーカーボン事業にも携わっています。魚礁の営業は地域の方々に事業の提案をする仕事ですが、この経験は今も大変役立っています。やるべきことは多いですが、これからも営業力を発揮します。

諏訪園：私は2021年の入社で、岡部の主力事業である建設資材のことも勉強中でしたが、ブルーカーボンというさらに新しい取組みに携わるようになり、日々様々な情報に触れています。海藻の二次利用の検証は少しずつですが前進しており、海藻を使って成型する

ところまで辿りつきました。次のステップとして、そういった海藻を使って新しい価値を社会に提供できるのか、という検討に取り組んでいます。難しい挑戦ですが、試行錯誤を楽しめるようになってきました。

林：これまで長い間、海藻の研究に携わってきました。海藻は岡部が長く注力してきた分野で、世界的にも注目度の高いブルーカーボン事業に携われていることをうれしく思っています。海藻を利用したビジネスを当社が成功させることができればうれしい限りです。

阿部：繰り返になりますが、当社の将来を支える新事業を立ち上げることが、事業開発室長としての最大のミッションです。苦しみながらも、新しいことに取り組み、新しい事業を立ち上げる仕事に携われることに、とてもワクワクしています。ブルーカーボン事業の展開には大きく期待しています。海洋事業部と力を合わせ、必ず成功させたいと思います。

前野：海洋事業を通じて、当社の成長や収益に貢献することはもちろん大きなテーマですが、海洋を守り、また水産業を支えることで、社会に貢献したいという思いを強く持っています。当社の未来、そして海洋の未来のために、全力を尽くします。

